

## 御代田中央記念病院の病床の再稼働（分娩の再開）について

医療法人社団 御代田中央記念病院

### 1 理由

出産の集約化政策で、ほとんどのお産が大きな病院に集中した結果、お産の医療化が進み、ハイリスクのお産に関してより安全な産科医療が提供できるようになったことは喜ばしいことです。一方、ローリスクのお産までもが医療上効率的な病院出産の方法で取り扱われるようになった結果、お産体験そのものの主体性が失われ、それを苦痛と感ずる女性が増えていることが指摘されています。産後うつ増加に国が対応しなければならなくなっている事態はその現れといえましょう。

女性の持つ産む力を発揮して、納得のいく自然な出産を、主体的に体験したいという女性が一定数いることは事実です。一方そのようなお産を取り扱うクリニックや助産所は様々な要因で年々お産から撤退してきました。そのため安全と安心そして女性の思いを大事にするお産の場所が必要と私達は考えています。

今回、当院の敷地内にある現在休止中の院内産院「音々」を再稼働することを決めたのはそのような時代の流れに対応し、女性が幸せな妊娠中の生活、納得の行く出産体験、きめの細かい産後ケアを通じて、産後うつなどの問題を未然に防ぐことを目指し、一貫した継続的な助産ケアを医師と助産師が協働して提供することを目的としています。

### 2 診療体制及び緊急時の対応

- ① 産婦人科外来は病院内の外来部門に設置しています。木曜と祝日を除く平日、週末（土日）に診療しています。また院内産院「音々」の医療セクションには、助産師外来および入院中問題に対応することのできる医療機器をはじめとする資機材を整えました。また、医師二人体制、助産師は八人で診療および助産ケアに対応します。
- ② 緊急時に対する対応としては、医師はオンコールで夜間・休日の対応が可能です。また妊娠経過中や分娩経過中の緊急対応も可能です。現時点では、緊急措置を施した後は、必要であれば後方支援病院として佐久医療センターと連携しており、直ちに紹介搬送することができます。産科入院や緊急帝王切開の実施が可能です。まずは安全を優先して、異常が発生した妊娠・分娩経過中の患者さんは、直ちに佐久医療センター紹介・搬送する計画です。

### 3 再稼働病床数

上記目標を実現するため、チーム・ケースロード・マタニティー・ケア（一人の妊婦さんに対して、2,3人の受け持ち助産師のチームが、一貫したケアを提供する仕組み）を提供できるよう、小規模の出産施設として、4床の再稼働を希望しています。将来的には月3件から5件のお産を取り扱うことを目標にしています。